

西村家の『由緒覺書』の考察と全文紹介

— 棧瓦の起源について —

平井俊行

1. はじめに

西村家の『由緒覺書』中の棧瓦の記述内容は、日本建築史研究の先駆者である伊東忠太氏が、大正5年の『建築雑誌』354号の中ですでに紹介されている。しかし同氏は、この話の真偽にはまったく触れず、この『由緒覺書』の棧瓦発明年代の延宝2年(1674)頃に棧瓦が発明され、葺かれるようになったと述べている。

その後、昭和27年の『建築史研究』10号の中で太田博太郎氏も「この話の真偽のほどは明らかでないが、他に全く史料がないので一応これが認められている。」とし、数例の古文書を引き、検討を加えた上で、棧瓦の発明が17世紀後半であったとする伝えも妥当なところであろうと結論づけられている。

また近年は、棧瓦の研究も進んできている。「八幡近郊と南山城地域で名を残した瓦師」(京都考古 第69号 1993, 3)の中で中尾正治氏は、『由緒覺書』について触れ、その成立年代や略家系を説明し、大阪の枚方敬応寺鼓樓の鬼瓦に「享保二十歳乙卯七月吉日 日本ならべ瓦根元西村惣左衛門尉三世只盈三十八才」と書かれていることを発見している。

しかしこれら『由緒覺書』を引用した論考の中には、直接本史料について検討を加えたものは存在せず、その史料的な価値を正確に把握できるものとはなっていない。

そこで本論では、『由緒覺書』の成立やその記述内容について考察を行い、その史料的価値を明らかにすると共にその全文をここに紹介し、諸氏の今後の参考に供するものである。

2. 『由緒覺書』の内容検討

1) 成立と構成

『由緒覺書』は、京都深草の自家西村五郎右衛門尉の所望により分家の河州招提村の西村惣左衛門泰寛が書き写したものであり、製作年代は天明5年(1785)である。後に自家筋が跡絶え、現在は京都市伏見区深草瓦町の善福寺に所蔵されている。

この善福寺には、他に西村家に関するものとして『由緒覺書』の中にある絵像本尊と裏書(別幅で軸莊)、その絵像本尊の由緒を記した寛政10年(1798)の巻物1卷(内容は『由緒覺書』の前半部分と同じ)がある。

構成は、『由緒覺書』の製作者である西村惣左衛門泰寛から12代前の橋野五郎右衛門尉正達(初代)より書起こされ、祖先4人の略歴と他8人の氏名・没年・没年齢等が記述されている。

初めに略歴があるのは初代正達であり、絵像本尊とその裏書を頂いた理由が記されている。次に2代より5代までの姓名と没年等がある。

次に略歴があるのは、6代目の橋野五郎右衛門尉正尚である。姓名を西村半兵衛と改め、瓦職人となった経緯が書かれている。その後7代から9代までの姓名と没年等を記す。

次に10代目が分家筋として成立し、江戸葺瓦を発明した略歴を述べ、11代目が現在居住する河内の招提村へ移った理由が記されている。

以上が全体構成であるが、この『由緒覺書』は随所に浄土真宗との関係が見られる。それらの事実関係について詳細に見て行くこととする。

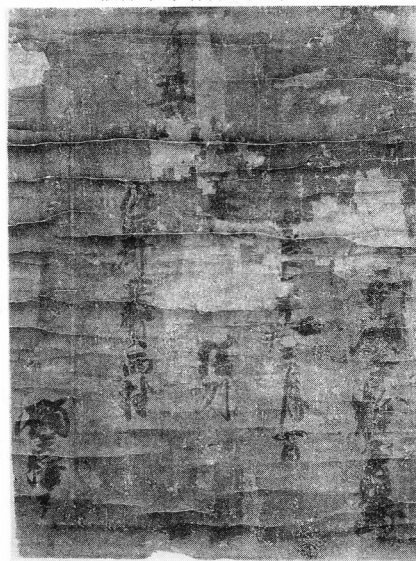
2) 記載内容の信憑性

この『由緒覺書』は、冒頭より本願寺第8世蓮如上人との関係が記され、大谷本願寺で起きた延暦寺衆徒による破却から書起こされている。しかし、破却の年代を文明3年(1471)としているが、実際に起きた法難は寛正6年(1465)のことであり6年の差が生じている。

また正達が住んでいた播州飭西郡英賀庄(現在の兵庫県姫路市英賀)は、明応年中に(1492~1500)に蓮如によって本徳寺が建てられて以降、西日本の真宗の拠点となった所であり、正達と子の正盈が文明頃に大谷本願寺に参詣していたことは年代的に不自然である。



絵像本尊(善福寺蔵)



裏書(善福寺蔵)

さらに、正達は文明11年(1479)山科本願寺に参詣して、絵像を戴いたとしているが、蓮如は当時「他流には、名号よりは絵像、絵像よりは木像、といふなり。当流には、木像よりは絵像、絵像よりは名号といふなり」(『実悟旧記』)と述べている点や本来絵像等を渡すときに裏書を行うものであり、本願寺第9世実如上人の代の大永2年(1522)にこれを願い出ている点なども矛盾している。

むしろ以上の点より、明応以降正宗の拠点となった英賀庄に住む正達という人が大永2年に実如より絵像を頂戴したと考える方が自然である。これにより『由緒覺書』の初めの部分は、絵像と裏書の存在をドラマチックに演出した文章と推定できる。

さらに6代目の橋野五郎右衛門尉正尚^{まさひさ}が姓を西村と改め、瓦職人となった経緯についても疑問がある。すなわち英賀庄司の正尚が天正9年(1581)に中国地方に軍を進めていた豊臣秀吉に敵対し、領地を没収されたため瓦職人となったとあるが、13年後の文禄3年(1594)にはすでに伏見城の瓦方棟梁となっている点である。

むしろ英賀庄に居住している時より瓦職人であり、天正9年頃より秀吉に使えるようになったと考えることができないだろうか。傍証として慶長5年(1600)に豊臣秀頼により再建された醍醐寺金堂の棟札には、「瓦大工播州式西郡安賀住藤原宗次 藤原正吉」と書かれ、英賀庄に瓦職人が存在したことが確認できる。

その後7代から9代までは、京都東山の大仏殿や西本願寺・東本願寺の諸堂の工事に際し、瓦方棟梁を勤めたとあるが、現時点ではこの記述を証明する史料は存在しない。

そして一番問題となる10代目西村五郎兵衛尉正輝^{まさてる}(半兵衛)の記述については、直接棧瓦

橋野・西村家家系図



発明に関する史料は発見されていない。しかし、大津市にある聖衆来迎寺本堂の旧鬼瓦には、「寛文五年乙巳七月 大津住 瓦師 正幸(花押) 西村半兵衛作之」とあることや園城寺唐院唐門の獅子口に、「三井寺大師御門 延宝貳年 とら十月日 瓦師半兵衛作 三十三才」と書かれており、『由緒覺書』にある年齢と一致する半兵衛(名は正幸である)が存在したことが確認できる。

11代目^{まさいえ}正家の時、宝暦5年(1708)に京都で大火があったおり、御所普請のため、伏見に引越したとある。三井寺の長日護摩堂の丸瓦には、「江州三井寺 瓦師西村半兵衛 元禄十一歳□月日」とあり、1690年代にはまだ大津に住居を構えていたことが確認できる。その後、正徳4年(1714)に河州招提村に引越し、名を惣左衛門と改めたとあるが、これを裏付けるように以後の瓦銘は京都の八幡・大阪の枚方近辺に存在する。享保3年(1718)には、京都府八幡市の旧善照寺本堂の鬼瓦(現在同市共同墓地の天水屋鬼瓦)に「享保三年十月根本瓦師西村惣左衛門河内國招提」とあることが中尾氏によって発見されている。

また享保20年(1735)には、大阪府枚方敬応寺の鼓楼に「日本ならべ瓦根元・・・」と書かれていることは前文の中で紹介した。これらで注目できる点は、13代にあたる泰寛が『由緒覺書』を製作する以前、11代・12代目の段階で「根本」・「根元」瓦師であると述べ、現在の棧瓦の発明者の子孫であることを鬼瓦銘を通して表明している点にある。

3. 小 結

『由緒覺書』の記載内容は、初代正達から9代正喜までは実在が確認できず、誇張を含む文章となっていると考えられる。しかし棧瓦を発明したとされる10代目の西村半兵衛以降は、瓦銘に名前を残し実在が確認できる。また11代目の正家が享保3年(1718)にはすでに「根本瓦師」と述べ、棧瓦の発明者の子孫であることを表明している点で、10代目西村半兵衛が棧瓦の発明者である可能性が十分あると考えられる。

しかしこれまでの史料は、棧瓦の発明を直接示すものとなっていない点で今後課題を残すものとなっている。今後園城寺に残る古文書の調査を通してその存在を明らかにして行くことが必要であると考えられる。

一方発掘調査においても今後、棧瓦の収集を行い、発生時期や伝播の状況を調査して行くことが求められると考えられる。

(ひらい・としゆき＝京都府教育庁指導部文化財保護課技師)

〔〕は改行を表わす)

由緒覺書

- 一 播州^{シキサイ}飴西郡^{アガノ}英賀庄^{マサミチ}西村之住人^{マサミチ}橋野^{マサミチ}尉正^{マサミチ}達^{マサミチ}ト云人^{マサミチ}アリ^{マサミチ}号^{マサミチ}美^{マサミチ}賣^{マサミチ}庄^{マサミチ}ト也^{マサミチ} 本願^{マサミチ}寺^{マサミチ}蓮^{マサミチ}如上人^{マサミチ}之御^{マサミチ}教化^{マサミチ}ニテ安心^{マサミチ}決定^{マサミチ}之^{マサミチ}信者^{マサミチ}タルユエ累^{マサミチ}年^{マサミチ}參^{マサミチ}シテ昵^{マサミチ}近^{マサミチ}シ奉^{マサミチ}リイマダ^{マサミチ}〕四十^{マサミチ}二^{マサミチ}モ不^{マサミチ}滿^{マサミチ}剃^{マサミチ}髮^{マサミチ}シテ法^{マサミチ}諱^{マサミチ}釋^{マサミチ}了^{マサミチ}薰^{マサミチ}ト〕号^{マサミチ}ス然^{マサミチ}ルニ文^{マサミチ}明^{マサミチ}三^{マサミチ}年^{マサミチ}二^{マサミチ}月^{マサミチ}十^{マサミチ}六^{マサミチ}日^{マサミチ}彼^{マサミチ}岸^{マサミチ}會^{マサミチ}ノ折^{マサミチ}節^{マサミチ}山^{マサミチ}門^{マサミチ}之衆^{マサミチ}徒^{マサミチ}此^{マサミチ}法^{マサミチ}流^{マサミチ}ヲ破^{マサミチ}却^{マサミチ}〕セ^{マサミチ}ント五^{マサミチ}百^{マサミチ}余^{マサミチ}騎^{マサミチ}引^{マサミチ}率^{マサミチ}シ洛^{マサミチ}東^{マサミチ}大^{マサミチ}谷^{マサミチ}ノ御^{マサミチ}坊^{マサミチ}ヲ取^{マサミチ}圍^{マサミチ}ケリ^{マサミチ}今^{マサミチ}智^{マサミチ}恩^{マサミチ}院^{マサミチ}境^{マサミチ}内^{マサミチ}旧^{マサミチ}跡^{マサミチ}也^{マサミチ} 其^{マサミチ}比^{マサミチ}了^{マサミチ}薰^{マサミチ}ノ嫡^{マサミチ}子^{マサミチ}橋^{マサミチ}野^{マサミチ}五^{マサミチ}郎^{マサミチ}〕右^{マサミチ}衛^{マサミチ}門^{マサミチ}尉^{マサミチ}正^{マサミチ}盈^{マサミチ}若^{マサミチ}年^{マサミチ}ナレドモ領^{マサミチ}解^{マサミチ}落^{マサミチ}著^{マサミチ}ノ身^{マサミチ}ト〕成^{マサミチ}テ彼^{マサミチ}岸^{マサミチ}之^{マサミチ}御^{マサミチ}法^{マサミチ}座^{マサミチ}聽^{マサミチ}聞^{マサミチ}ノタメ遙^{マサミチ}々^{マサミチ}之^{マサミチ}波^{マサミチ}〕濤^{マサミチ}ヲ凌^{マサミチ}キ播^{マサミチ}州^{マサミチ}ヨリ上^{マサミチ}リ居^{マサミチ}合^{マサミチ}セケリ又^{マサミチ}帝^{マサミチ}都^{マサミチ}〕守^{マサミチ}護^{マサミチ}之^{マサミチ}武^{マサミチ}士^{マサミチ}ノ中^{マサミチ}ニ參^{マサミチ}河^{マサミチ}國^{マサミチ}住^{マサミチ}人^{マサミチ}佐^{マサミチ}々^{マサミチ}木^{マサミチ}如^{マサミチ}光^{マサミチ}〕ト云人^{マサミチ}常^{マサミチ}々^{マサミチ}御^{マサミチ}勸^{マサミチ}化^{マサミチ}ヲ聽^{マサミチ}聞^{マサミチ}シテ二^{マサミチ}心^{マサミチ}ナキ信^{マサミチ}者^{マサミチ}〕ナリシガ其^{マサミチ}日^{マサミチ}モ參^{マサミチ}詣^{マサミチ}セラレシガ如^{マサミチ}斯^{マサミチ}不^{マサミチ}慮^{マサミチ}ノ〕逆^{マサミチ}乱^{マサミチ}出^{マサミチ}來^{マサミチ}セシカバ下^{マサミチ}間^{マサミチ}安^{マサミチ}藝^{マサミチ}法^{マサミチ}眼^{マサミチ}佐^{マサミチ}々^{マサミチ}木^{マサミチ}〕如^{マサミチ}光^{マサミチ}橋^{マサミチ}野^{マサミチ}正^{マサミチ}盈^{マサミチ}其^{マサミチ}外^{マサミチ}與^{マサミチ}力^{マサミチ}之^{マサミチ}面^{マサミチ}々^{マサミチ}四^{マサミチ}方^{マサミチ}八^{マサミチ}面^{マサミチ}ニ〕切^{マサミチ}テ廻^{マサミチ}リ花^{マサミチ}火^{マサミチ}ヲ散^{マサミチ}シ防^{マサミチ}キ戰^{マサミチ}イケレバ太^{マサミチ}刀^{マサミチ}先^{マサミチ}ニ〕渡^{マサミチ}ル者^{マサミチ}ナシトイヘドモ敵^{マサミチ}目^{マサミチ}ニア^{マサミチ}マル大^{マサミチ}勢^{マサミチ}ナレバ〕下^{マサミチ}間^{マサミチ}法^{マサミチ}眼^{マサミチ}上^{マサミチ}人^{マサミチ}之^{マサミチ}御^{マサミチ}前^{マサミチ}ニ參^{マサミチ}リ申^{マサミチ}上^{マサミチ}ルヤウ〕惡^{マサミチ}徒^{マサミチ}多^{マサミチ}勢^{マサミチ}ニテ叶^{マサミチ}フヘキトモ存^{マサミチ}セズ御^{マサミチ}眞^{マサミチ}影^{マサミチ}〕ヲ植^{マサミチ}込^{マサミチ}ノ中^{マサミチ}ニ深^{マサミチ}ク隱^{マサミチ}シ奉^{マサミチ}リ上^{マサミチ}人^{マサミチ}ハ灰^{マサミチ}屋^{マサミチ}ニ〕忍^{マサミチ}バセ玉^{マサミチ}ヘト云^{マサミチ}ヨリモ早^{マサミチ}ク惡^{マサミチ}僧^{マサミチ}ドモ御^{マサミチ}堂^{マサミチ}ニ火^{マサミチ}〕ヲカケタリ下^{マサミチ}間^{マサミチ}佐^{マサミチ}々^{マサミチ}木^{マサミチ}橋^{マサミチ}野^{マサミチ}等^{マサミチ}四^{マサミチ}邊^{マサミチ}ヲ〕駈^{マサミチ}破^{マサミチ}リ多^{マサミチ}クノ敵^{マサミチ}ヲ追^{マサミチ}散^{マサミチ}ラス然^{マサミチ}ルニ法^{マサミチ}眼^{マサミチ}ハ如^{マサミチ}〕光^{マサミチ}ニ向^{マサミチ}ヒ云^{マサミチ}ケルヤウ御^{マサミチ}邊^{マサミチ}ハ急^{マサミチ}キ皈^{マサミチ}宅^{マサミチ}セラレ〕ヨ跡^{マサミチ}ヨリ上^{マサミチ}人^{マサミチ}之^{マサミチ}御^{マサミチ}供^{マサミチ}申^{マサミチ}シ御^{マサミチ}邊^{マサミチ}ノ宅^{マサミチ}エ〕參^{マサミチ}ルヘシト約^{マサミチ}諾^{マサミチ}ス下^{マサミチ}間^{マサミチ}甲^{マサミチ}斐^{マサミチ}へシク御^{マサミチ}眞^{マサミチ}影^{マサミチ}ヲ薦^{マサミチ}ニ包^{マサミチ}ミ負^{マサミチ}奉^{マサミチ}リ上^{マサミチ}人^{マサミチ}之^{マサミチ}御^{マサミチ}供^{マサミチ}申^{マサミチ}シ〕如^{マサミチ}光^{マサミチ}方^{マサミチ}へ落^{マサミチ}行^{マサミチ}ヲ惡^{マサミチ}僧^{マサミチ}トモ追^{マサミチ}掛^{マサミチ}上^{マサミチ}人^{マサミチ}ノ御^{マサミチ}〕足^{マサミチ}ヲ雜^{マサミチ}奉^{マサミチ}レハ左^{マサミチ}ノ御^{マサミチ}足^{マサミチ}ニ當^{マサミチ}リケリ下^{マサミチ}間^{マサミチ}橋^{マサミチ}〕野^{マサミチ}是^{マサミチ}ヲ見^{マサミチ}テ惡^{マサミチ}僧^{マサミチ}ガ持^{マサミチ}タル長^{マサミチ}刀^{マサミチ}ヲ奪^{マサミチ}イ〕取^{マサミチ}テ首^{マサミチ}ヲ討^{マサミチ}落^{マサミチ}ス然^{マサミチ}レ共^{マサミチ}殘^{マサミチ}黨^{マサミチ}急^{マサミチ}リニ追^{マサミチ}〕詰^{マサミチ}テ通^{マサミチ}レ玉^{マサミチ}フベクモ見^{マサミチ}エザル所^{マサミチ}ヲ正^{マサミチ}盈^{マサミチ}一^{マサミチ}人^{マサミチ}踏^{マサミチ}止^{マサミチ}リ大^{マサミチ}音^{マサミチ}アケテ播^{マサミチ}州^{マサミチ}英^{マサミチ}賀^{マサミチ}庄^{マサミチ}司^{マサミチ}〕橋^{マサミチ}野^{マサミチ}五^{マサミチ}郎^{マサミチ}右^{マサミチ}衛^{マサミチ}門^{マサミチ}尉^{マサミチ}正^{マサミチ}盈^{マサミチ}生^{マサミチ}年^{マサミチ}廿^{マサミチ}一^{マサミチ}歲^{マサミチ}〕手^{マサミチ}並^{マサミチ}ヲ見^{マサミチ}ヨト若^{マサミチ}盛^{マサミチ}ノ血^{マサミチ}氣^{マサミチ}ニテ勇^{マサミチ}戰^{マサミチ}シ惡^{マサミチ}〕徒^{マサミチ}五^{マサミチ}人^{マサミチ}切^{マサミチ}臥^{マサミチ}セ七^{マサミチ}人^{マサミチ}ニ手^{マサミチ}ヲ負^{マサミチ}セタレドモ多^{マサミチ}〕勢^{マサミチ}ニ取^{マサミチ}卷^{マサミチ}レ終^{マサミチ}ニ討^{マサミチ}死^{マサミチ}ヲソシタリケルコ^{マサミチ}ノ此^{マサミチ}ヒマニ〕上^{マサミチ}人^{マサミチ}ヤスへト如^{マサミチ}光^{マサミチ}之^{マサミチ}宅^{マサミチ}ニ落^{マサミチ}ツカセラレテ正^{マサミチ}〕盈^{マサミチ}ガ忠^{マサミチ}死^{マサミチ}ヲ深^{マサミチ}ク惆^{マサミチ}悵^{マサミチ}シ玉^{マサミチ}ヒテ法^{マサミチ}諱^{マサミチ}ヲ道^{マサミチ}〕薰^{マサミチ}ト下^{マサミチ}サレナリサテ此^{マサミチ}所^{マサミチ}ニ暫^{マサミチ}ク御^{マサミチ}逗留^{マサミチ}ナ〕サレ廿^{マサミチ}三^{マサミチ}日^{マサミチ}ニ安^{マサミチ}藝^{マサミチ}法^{マサミチ}眼^{マサミチ}ヲ以^{マサミチ}テ三^{マサミチ}井^{マサミチ}寺^{マサミチ}ヲ〕御^{マサミチ}頼^{マサミチ}ミアレハ快^{マサミチ}ク肯^{マサミチ}ハレケルニヨリ其^{マサミチ}夜^{マサミチ}〕忍^{マサミチ}テ園^{マサミチ}城^{マサミチ}寺^{マサミチ}へ入^{マサミチ}セ玉^{マサミチ}ヘバ御^{マサミチ}眞^{マサミチ}影^{マサミチ}ヲ院^{マサミチ}〕内^{マサミチ}近^{マサミチ}松^{マサミチ}ニ移^{マサミチ}シ奉^{マサミチ}リ蓮^{マサミチ}淳^{マサミチ}法^{マサミチ}師^{マサミチ}ヲ蓮^{マサミチ}如^{マサミチ}之^{マサミチ}御^{マサミチ}男^{マサミチ}也^{マサミチ}〕御^{マサミチ}守^{マサミチ}ニ付^{マサミチ}置^{マサミチ}玉^{マサミチ}ヘリ四^{マサミチ}月^{マサミチ}中^{マサミチ}旬^{マサミチ}マデ三^{マサミチ}井^{マサミチ}寺^{マサミチ}〕御^{マサミチ}滯^{マサミチ}留^{マサミチ}マシへ御^{マサミチ}足^{マサミチ}ノ疵^{マサミチ}平^{マサミチ}復^{マサミチ}シ玉^{マサミチ}フニ〕ヨリ三^{マサミチ}井^{マサミチ}寺^{マサミチ}ヲヒソカニ出^{マサミチ}玉^{マサミチ}ヒ越^{マサミチ}前^{マサミチ}足^{マサミチ}羽^{マサミチ}〕郡^{マサミチ}北^{マサミチ}庄^{マサミチ}ニツキ玉^{マサミチ}へハ國^{マサミチ}主^{マサミチ}朝^{マサミチ}倉^{マサミチ}左^{マサミチ}衛^{マサミチ}門^{マサミチ}尉^{マサミチ}敏^{マサミチ}景^{マサミチ}〕法^{マサミチ}号^{マサミチ}宗^{マサミチ}雄^{マサミチ}皈依^{マサミチ}シ奉^{マサミチ}ラレ金^{マサミチ}銀^{マサミチ}米^{マサミチ}穀^{マサミチ}〕塩^{マサミチ}噌^{マサミチ}材^{マサミチ}木^{マサミチ}人^{マサミチ}夫^{マサミチ}等^{マサミチ}マテ寄^{マサミチ}附^{マサミチ}シ玉^{マサミチ}ヒ坂^{マサミチ}北^{マサミチ}〕郡^{マサミチ}細^{マサミチ}呂^{マサミチ}宜^{マサミチ}郷^{マサミチ}内^{マサミチ}吉^{マサミチ}崎^{マサミチ}山^{マサミチ}ニ一^{マサミチ}宇^{マサミチ}御^{マサミチ}建^{マサミチ}立^{マサミチ}有^{マサミチ}テ〕前^{マサミチ}後^{マサミチ}五^{マサミチ}ヶ年^{マサミチ}御^{マサミチ}逗留^{マサミチ}ニテ文^{マサミチ}明^{マサミチ}七^{マサミチ}年^{マサミチ}九^{マサミチ}〕月^{マサミチ}四^{マサミチ}日^{マサミチ}ノ曉^{マサミチ}吉^{マサミチ}崎^{マサミチ}浦^{マサミチ}七^{マサミチ}曲^{マサミチ}ト云^{マサミチ}所^{マサミチ}ヨリ御^{マサミチ}船^{マサミチ}〕ニテ若^{マサミチ}州^{マサミチ}小^{マサミチ}濱^{マサミチ}へ御^{マサミチ}着^{マサミチ}岸^{マサミチ}アリ夫^{マサミチ}ヨリ丹^{マサミチ}〕波^{マサミチ}路^{マサミチ}ヲ越^{マサミチ}撰^{マサミチ}州^{マサミチ}萩^{マサミチ}谷^{マサミチ}富^{マサミチ}田^{マサミチ}等^{マサミチ}ニ暫^{マサミチ}ク御^{マサミチ}逗留^{マサミチ}〕留^{マサミチ}又^{マサミチ}河^{マサミチ}州^{マサミチ}茨^{マサミチ}田^{マサミチ}郡^{マサミチ}中^{マサミチ}振^{マサミチ}郷^{マサミチ}山^{マサミチ}本^{マサミチ}ノ内^{マサミチ}出^{マサミチ}口^{マサミチ}村^{マサミチ}ニ〕一^{マサミチ}宇^{マサミチ}御^{マサミチ}建^{マサミチ}立^{マサミチ}ニテ御^{マサミチ}在^{マサミチ}寺^{マサミチ}アリケリ

一 江州金森ノ住人赤尾弥七入道善從ト」云人ハ 慶聞防 親父ナリ 前任存如上人ノ御代ヨリモ」
 ヲ、タニ マイ 深キ信者ナリ 出口閑窓ニ」參詣シテ申サレケルハ城州宇治郡小野」
 庄内山科郷野村西中小路ト云所ハ貴」坊御建立アルニ宜キ在所ナリ此地ハ都」鄙之
 道俗參集ノ便リ尤然ルヘキヨシ再」 詔ニ及テ申上ラレシカバ其所ヲ歴覽シ」玉ハント
 テ文明十年 年正月廿九日河州」出口村ヨリ御上洛マシ 夫ヨリ大津近松へ」御通
 リノ砌山科ノ郷内ニ安祥寺ト云在」所アリ此所ニ信者アリケルニヨリ暫ク御逗」留ニ
 テ御教化マシ 諸人郡集ス然ルニ」同郷内野村ト云所ニ遠州ノ守護海老」名遠江守
 ノ子孫海老名五郎左衛門ト」云者アリ上人ノ御教化ヲ慕ヒ參詣シテ」信心ノ御門徒ト
 ナリテ申シ上ケルハ幸イ」某所持ノ針木林ニ四五町ノ平地アリ此地ニ」御堂御建立ナ
 サレサフラハ寄附致シ」奉ラント望ミ申ケル是則弥七入道善從」兼々申シ上ラレシ
 勝地ナリケレハ上人宿」縁ノ到來ソト斜メナラズ御満悦マシ 則」輦輿ニ召サレ
 カノ地ヲ見玉フニ宜シト所ナルユヘ」先時機ヲ試ミ玉フヘシト塚ニアリケル小房ヲ取」
 上セ假ニ御坊ヲ建玉ヒ爰ニテ御教化有ケルニ貴賤群衆ナスコト蟻ノアツマルゴトクナ
 レバ」御悦ビ限ナシ此山科ノ勝地ハ西宗寺ノ先」祖海老名氏寄附ノ地ナリカクテ文明」
 十年暮暮ヌレハ近松ニテ上人御越年マシマ」シケリ

文明十一 年正月十六日ヨリ山科ノ地形引」ナラシ四圍ノ竹木植サセ玉ヒ三
 月初比又」泉州堺ヨリ古坊ヲ取ヨセラレ御寢殿ニ」シツライ玉ハントテ四月廿八日ヨ
 リ柱立初マリ」八月ニ周備シテ築山マテ成就ス然ルニ往文」明三年橋野五郎右衛門尉
 正盈 忠死セシ比胎内ニヤドレル子誕生シテ男子」ナリ祖父了薰養育シテ九歳ノ
 時山科御」造榮ヲ承リ悦ヒ幼孫ヲ召連山科ヘ登リ蓮」如上人ヲ拜謁シ奉レバ甚御感ノ
 上ソレナル幼」者ハ如何ニト仰ラレケルニヨリ討死セシ道薰」ガ忘レ形見ノヨシヲ具
 ニ申上ケレハ上人モ御」ナツカシク思召サレケルニヤ幼孫ヲ近クヨレト御」膝モトヘ
 召レ汝成長スルニシタガイ父ヨサゾ」戀シク思フラン然ルトキハ此御眞向御本尊」
 此則汝ガ父ナリ朝暮拜セヨトテ御自」筆テ御繪像遊サレテ下シ玉フヲ項載」セシ也此
 幼孫ヲ後ニ橋野五郎右衛門尉」正幸 ト号ス其後打續キテ御」影堂阿弥陀堂并
 厨大門築地堀」橋四方土封並樹等マテ文明十五 年八月ニ至テ前後六ヶ年ニ善盡
 シ美」ヲキハメテ悉ク成就スト云

一 大坂ノ御防ハ明應五年九月ヨリ御」開初アツテ同七 年諸堂悉ク造」畢シ實如上
 人へ御寺務御讓リナサレシ」ナリカクテ橋野了薰今歳九十ノ顔齡ナ」レハ今生ノ
 御暇乞ト存シ長途ノ老疲ヲ」厭ハス孫五郎右衛門尉正幸ヲ召連太永二」之春彼岸ヲ
 志シ大坂エ參詣シテ實如」上人ヲ拜謁シ奉リ往年此御本尊ヲ」拜領セシ由緒悉ク申上
 テ御裏書願」奉リケレバ則御筆ヲ染サセラレテ了薰ニ下シ置セ玉フ

右之御本尊御裏書ノ寫シ

本願寺釋實如 御書判

大永二年午壬三月八日

本願寺門徒

方便法身尊形

播州飭西郡英賀西村

願主橋野了薰

釋了薰

俗名橋野五郎右衛門尉正達

号英賀庄司ト

大永五^乙年九月十日往生

行年九十三歳

釋道薰

俗名橋野五郎右衛門尉正盈

文明三^{辛卯}年二月十六日洛東於

大谷討死ス

行年二十一歳

釋道貞

俗名橋野五郎右衛門尉正幸

享祿四^{辛卯}年五月十三日往生

行年六十一歳

釋道受

俗名橋野五郎右衛門尉正澄

天正^{乙亥}年八月十九日往生

行年七十四歳

釋道純

俗名橋野五郎右衛門尉正頼

永祿十二^{己巳}年十一月四日往生

行年四十一歳

一 西村氏素ハ橋野ト号シテ代々播州飭西郡英賀庄西村ニ居住ス然ルニ天正九^{辛巳}年

中」國兵乱ノ時了薰ヨリ六代ノ孫英賀庄」司橋野五郎右衛門尉正尚マサヒサ 法名 ヒデオシコウ 道喜秀吉公」ニ
 敵對シ奉ル御答メニテ領地没収セラレ」テ流浪ス因茲姓名ヲ深く隠シ古郷ノ在」名ヲ
 名字トシテ西村半兵衛ト改ム身ヲ隱」スヘキ家業ヲ求ントテ河州譽田ノ瓦工ニ」復リ
 テ其細工并葺方ノ目論奇妙ヲ得」タリ文禄二癸年伏見ニ御繩張アツテ翌」三甲年御城
 築キ玉フニヨリ瓦方棟梁ヲ」此半兵衛ニ仰付ラレ伏見田町ニ細工屋鋪并」
 土取場所拝領シ御用相勤メ其後打續」家業ヲ営ム或時太閤秀吉公伏見ニ夥ク」煙ノ立
 ケルヲ大坂ヨリ御覽アツテ御城ノ」安否如何ニト驚キ玉ヒ御出馬アリケリ火元」見ノ
 早打出口村ニテ行合奉リ瓦焼ノ煙」ト言上シケルユヘ御飯城ナサレケリ扱此以後」ニ
 モ又此煙ニテ驚クコトモヤト思召サレケン早速」取替仰付ラレテ城州紀伊郡深草芝山」
 ニテ細工屋鋪并土取場所拝領シ此所ニ初テ」移住ス是則深草瓦工之根元也

元和四戊午年五月九日往生

行年六十六歳法号釋道喜

道喜子

- 一 西村半兵衛尉正英マサヒサ 法名 道味洛東大佛殿ヲ」秀頼公御再建シ玉フニヨリ慶長十四酉己」年ヨリ
 事初アツテ同十九寅寅年マテニ悉ク」成就セリ右此瓦方立合棟梁ヲ仰付ラル」父正尚公
 者タルニヨリ父子共ニ御用相勤」メシナリ

寛永七庚午年二月廿五日往生

行年四十六歳法名釋道味

- 一 西村五郎右衛門尉正易マサヤス本願寺西六條へ御」移住ノ時先祖了薰由緒ヲ以テ諸堂ノ」瓦方
 棟梁ヲ仰付ラレケリ

慶安二己午年三月廿二日往生

行年五十歳法号釋道加

- 一 西村五郎右衛門尉正喜マサヨシ 法名 道圓東六條伽藍」作ニ御建直シアリシ時阿弥陀堂御」影堂瓦方
 一式棟梁仰付ラル

延宝五丁巳年四月廿六日往生

行年五十四歳法号釋道圓

右道圓ニ男子アマタアリ

深草ノ本家ヲ繼ナリ惣領タルユヘ
 長男 實如上人御裏書ノ彼御本尊
 五郎右衛門 ヲ安置シテ子孫代々□今相傳ス
 二男 江州志賀郡大津三井寺北別所
 五郎兵衛 観音寺町ニ居住ス
 三男 源太夫 勢州山田ニ居住ス
 四男 源兵衛 摂州高槻ニ居住ス
 五男 甚右衛門 丹後宮津ニ居住ス

道圓二男

一 西村五郎兵衛尉正輝^{マサテル 法諡 道西} 御公儀御蔵^{ココウキキランクラ} 五十七ヶ所大津ニ御造營ニツキ瓦一式此^{シヨウワツ ゴノウエイ カハライツシキノ} 五郎兵衛ニ仰付^{ヲウセツケ}ラレ名ヲ半兵衛ト改メ^{ナ アラタ} 江州志賀郡大津三井寺北別所^{ゴウシウシガノコウリ} 観音^{キタノベツシヨクハンラン} 寺町ニ初テ^{ジ ハジメ} 居住セリ然ルニ此半兵衛若^{キヨボウ シカ} 年ヨリ思寄ケルハ瓦家ノ屋根大分ノ重リ^{ネン フモイヨリ カハラヤ ヤ ネダイフン ヲモ} ナルユヘ何トゾ輕クナルヤウニシテ瓦ノカサ子^{カハ} 多カラ^{ヲウ}ンヤウニ工ミ出サントノ念願^{タクイ ズ ネンダハン}アリケルニ」其比^{ソノコロ}牧野備後守殿^{マキノノビンゴノカミドノ} 江戸屋鋪^{エドヤシキ}ノ長ヤ^{ナガ} ヲ火除瓦トテ葺セ玉フヨシノ風聞^{ヒヨケカハラ フカ}シケ」レバ熊々^{クマクマ}江府^{エフ}へ下リ^{クダ}レ是ヲ見ルニ常ノ平瓦^{ツネ ヒラカハラ}ヲ扮屋根^{ヨハギネ}ニ並ベタルモノ也此分^{コノブン}ニテハ雨水^{ウスイ}ヲ防^{フセ}グベキ術^{シユツ}ナク面白カラズトテ早尾大明^{サウワ} 神^{カミ}ヘ祈誓^{キセ}ヲカケ工夫^{クフウ}セシ所ニ寛文^{クワンブン} 十一年^{トコロ クハンブン} 正月元朝^{クワンチヤウ}ノ靈夢^{レイム}アリ」ガタク肝^{キモ}ニ銘^{メイ}ジ神力^{シンリキ}ニ任セ心ヲ盡シテ^{マカ コ、ロ ツクシ} 二角^{スミ}ヲ切^{キリ}闕^{カツ}縫^{ツキアセ}合^{シノギ}ニ鑄^コヲ付^{ツケ}ルナラハ雨水^{ウスイ} ヲ流^{ナガ}ルベシト鍛練^{タンレン}スルコト年ヲ歴テ延^{ヒキ}寶^{ホウ}二^ニ甲^{ケツ}年^{ネン}四月八日^{シゲツキ} 願望^{クワンボウ}成就^{シユジュ}シ其^{ソノ} 瓦^{カハラ}ヲ三井寺^{サンメイジ} 万徳院^{マントクイン}ノ玄闕^{ゲンクワン}ヲ初メテ^{ハシ} 葺^{フキ}タル時此瓦^{トキコノカハラ}ヲ如何^{イカニ}申スヘシ哉^{イカニモウ}名ヲ付^{ツケ}タビ玉^{タマ}ヘト申ケレバ江戸^{エド}ニテ火除瓦^{ヒヨケカハラ}ヲ見^ミテ工夫^{クフウ}ノ種^{タネ}トナリシカバ只^{タ、エド}江戸葺瓦^{フキカハラ}ト」云^{イウ}ヘキ歟^カト宣^{ノタマ}ヘリ是則^{コレスナハチ}江戸葺瓦^{エドフキカハラ}濫觴^{ランシヤウ}」ノ作人^{サクニン}ハ此半兵衛也^{コノ}

貞享四年^{テウキヤウ}正月廿七日往生

行年四十六歳法諡釈道西

一 西村半兵衛尉正家マサイハ 法諱 道源寶永五子年三月八日午ムノコク尅ヨクヨリ翌九日巳ミノ尅コクニ到テ京都キヤウト大火タイクハ
 ノ時内裏諸御殿棟方瓦ノ棟梁仰トウリキウヲウ ツケ付ラル因茲伏見ノ御奉行建部内近頭ヨツテコレニフシミ ヲンフキヤウタテベタクミノカミ トノ殿ヨリ瓦細工
 ノ屋鋪ヲ伏見ノ田町二仰渡サヤシキ フシミ タマチ ヲウセハタレ大津觀音寺町ヨリ引越此所へ移リテヨウツクハンヨンジ ヒキコシコトコロ ウツ御用相勤メシ
 ナリ其後河州交野郡牧ノ郷招提村ノ住仁左衛門ハソノノチカシウカタンコウリマキ コウシヨダイムラ ジウニ 法諱 教意縁者タルニヨリ庄屋衆中へ
 願ヲ立御地頭本多遠江守ネカイ タテゴジトウホンダトヲヘミノカミ ドノ ヲンヤクシヨ ウツタヘイトノシヤウトク殿ノ大坂御役所へノ訟相調正徳四年妻サイ子召連テ伏見ヨ
 リ招提村へ引越移住シシヨダイムラ ヒキコシイヂウ名ヲ惣左衛門ト改ム其御當村惣道場之ナ ソウ アラタ ソノミキリトウムラソウドウジヤウノ キヤウヲウジサイコン敬應寺再建ニツキ
 瓦一式ヲ撰州富田ノ瓦師カハライツシキ セツシウトンタ カハラシ キウ久右衛門ト此惣左衛門ト兩人立會棟梁ニコノソウザ リヤウニタチアイトウリヤウ ツトメコレヲヨハンテ勤之訖

道西長男 享保廿年乙卯壬三月十四日往生
 釋道源 行年七十一歳

道源長男 俗名惣左衛門只盈
 釋道喜 明和四亥歳十月廿六日往生
 行年七十二歳

此一巻年來吾家相傳之處
 耶御所望ニ依而寫傳者也

先祖橋野五郎右衛門ヨリ十三代

干時 河州招提村
 天明五乙歳 西村惣左衛門
 正月上旬 泰寛

西村五郎右衛門尉殿